

2022年8月吉日

各位

日本建築学会 第45回情報・システム・利用・技術シンポジウム
協賛のお願い

一般社団法人日本建築学会
情報システム技術委員会
委員長 渡辺 俊

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当シンポジウムの運営につきまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、日本建築学会 情報システム技術委員会では、建築・都市・環境の各分野を横断するITの新しい可能性を追求する場を提供することを目的として、年に一度、情報・システム・利用・技術シンポジウム（通称：情報シンポ。英語名称：AIJISA）を開催しております。近年は、デジタルトランスフォーメーション（DX）が広く認知され、コンピューテーショナル・デザイン、BIM、AI、IoT、XRをはじめとして、情報システム技術の役割は果てしない広がりを見せようとしています。

第45回目を迎える本年は、全体テーマ「地球規模で考えよう | Thinking on a global scale」の下、2022年12月1日（木）、2日（金）の2日間、新型コロナウイルスの影響も鑑み、建築会館（東京都港区）とオンラインのハイブリッド方式にて開催するはこびとなりました。但し、対面型での実施が全く困難な場合には、フルオンラインにて実施します。

情報シンポ2022では、著名な研究者・建築家・実務家を招へいしての基調講演、論文および報告の発表、オーガナイズドセッション等のプログラムを計画しており、研究者、実業家、設計者、施工者、コンサルタント、エンジニア、行政関係者、IT技術者、学生などに多数ご参加頂き、活発な意見交換と交流の場にしたいと考えております。国内外からの参加しやすい仕組みづくりとして、公式HPを日本語版と英語版で公開すると共に、2018年度より、論文・報告は全て電子登録・投稿システムを採用し、2019年度より、若手優秀発表賞の創設、インタラクティブ発表を実施しております。

お陰様で、近年は参加者数、論文発表数はいずれも増加しております。御社の取り組みを参加者に広く紹介していただく絶好の機会かと存じます。つきましては誠に恐縮ではございますが、上記の趣旨に積極的にご賛同の上、ご協賛を賜りたく、ここにお願いさせて頂く次第でございます。

ご協賛の内容につきましては、下記のとおりとさせていただきます。シンポジウムの成功に向けて、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

敬具

協賛金額 一口 15万円（フルオンライン実施となった場合は一口11万円）

募集期間 2022年10月28日（金）まで

ご協賛特典

- ① 開催中の2日間、対面会場内にて展示ブースを設置し、広報活動を行って頂けます。設置・撤収にはご担当者の派遣をお願いします。説明員の常時配置は任意とさせていただきます。

- ② 2名様までシンポジウムに無料でご参加頂けます。但し、論文・報告発表者の方は、通常の参加費が必要となります。
- ③ インタラクティブ発表とスポンサーのプレゼンを合わせたイベントとして、インタラクティブ・スポンサーセッションを実施します。その他、シンポジウム期間中、御社名をご紹介させていただきます。
- ④ HP（ <https://www.aijisa.org/2022/> ）で公開するシンポジウムのプログラム、掲載告知メディア（HP、チラシなど）に御社名又はロゴを掲載します。特に、お申し込みを頂いた後、御社ロゴをHP上に速やかに掲載させていただきます。

回答先： 情報システムシンポジウムWG 主査 福田知弘（大阪大学 大学院工学研究科 准教授）
fukuda.tomohiro.see.eng@osaka-u.ac.jp

事務局担当：〒108-8414 東京都港区芝5-26-20 日本建築学会事業グループ 高畑佳弘
TEL：03-3456-2057 E-mail：takahata@aij.or.jp

日本建築学会 第45回 情報・システム・利用・技術シンポジウム 開催計画概要

日 程	2022年12月1日（木）・2日（金）
会 場	建築会館（東京都港区）とオンラインのハイブリッド方式
参 加 者	約200名
主 催	日本建築学会 情報システム技術委員会
H P	https://www.aijisa.org/2022/

全体テーマ 地球規模で考えよう | Thinking on a global scale

基調講演

その1「建築DXの時代を考える」

加速度的に進化を続ける建築情報技術。リアルとヴァーチャルの境界が消えていく感覚すらある昨今、建築に携わる私たちはどこに向かって歩みを進めるのでしょうか。DXへの対応、SDGsへの貢献、情報戦略、デジタルと実世界のつながり方、人とコンピュータの役割分担など、どのように考え、取り組んでいくべきでしょうか。

本セッションでは、戦禍で揺れる欧州でいち早く難民支援に動いた建築家・坂茂氏をお招きします。坂氏が、どのような考えのもとで作品づくりや社会貢献活動を長年推進されているのか、伺います。

建築情報技術が物理的な環境だけでなく人間の生き方にまで関与していくことを念頭におき、建築意匠、都市計画、システムデザインなどの分野を横断しながら、教育や人材育成をどのように進めていくべきかについても議論します。

その2「建築情報技術とSDGs」

未来社会像として掲げられているSociety 5.0の実現にあたっては、SDGsの達成が強く意識され、国が進める科学技術・イノベーション基本計画等だけではなく、産業界においても、例えば、「Society 5.0 for SDGs」を掲げた日本経済団体連合会の取組が精力的に推進されています。建築BIM、3次元都市モデル、建築・都市のDXなども未来社会像の実現の流れの中で進み、そこでは、様々な建築情報技術が重要な役割を果たし、SDGsの達成に貢献することが期待されます。

本PDでは、未来社会像の実現に向けた取り組みとSDGsの達成、それに寄与する建築情報技術の役割や課題について議論します。

論文（査読あり）・報告・インタラクティブ発表：約110編（大学教員、学生、国・企業等の研究者・実務者）

実行委員

情報システムシンポジウムWG

福田 知弘（大阪大学：主査）
山邊 友一郎（神戸大学：幹事）
松永 直美（レモン画翠）
倉田 成人（筑波技術大学）
山田 悟史（立命館大学）
藤井 健史（金沢工業大学）
加戸 啓太（千葉大学）
高 佳音（東京理科大学）
塩坂 靖彦（大林組）
水谷 晃啓（豊橋技術科学大学）
北本 英里子（立命館大学）
中澤 公伯（日本大学）
渡辺 俊（筑波大学）

情報システムシンポジウム論文WG

中澤 公伯（日本大学：主査）
瀧澤 重志（大阪市立大学：幹事）
松本 裕司（京都工芸繊維大学：幹事）
朝山 秀一（東京電機大学）
池田 靖史（東京大学）
岩崎 友洋（大林組）
加賀 有津子（大阪大学）
大崎 純（京都大学）
木村 謙（エーアンドエー株式会社）
倉田 成人（筑波技術大学）
白石 理人（清水建設）
吉田 友紀子（茨城大学）
島田 英里子（日建設計）
福田 知弘（大阪大学）
渡辺 俊（筑波大学）